

令和4年度第1回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日時 令和4年7月7日(木) 10:00~11:55
- 会場 ピュアリティまきび 3F橋の間(岡山市北区下石井2-6-41)
- 出席者 <委員(五十音順)>
米谷会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、坂本委員、
泉水委員、田中委員、那須委員、松井委員、松本委員、
三村委員、山口委員
※委員15人中12人の出席であり、本審議会は成立
<事務局>
環境文化部：佐藤環境文化部長、有田文化スポーツ振興監、
岡本マラソン事務局参与、宮野スポーツ振興課長
保健福祉部：山邊障害福祉課総括参事
教 育 庁：山本保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症が再び拡大傾向ではあるが、これまで様々なスポーツ活動が制約を受けてきた中、関係皆様の熱意と尽力のもと、様々な感染対策を講じながら、スポーツ活動を再開する機運が徐々に盛り上がっている。
- ・県では、トップクラブチームのホームゲームへの県民無料招待や子どもたちを対象としたスポーツ教室、また、11月には3年ぶりの開催となるおかやまマラソンの準備等を着実に進めているところである。
- ・また、2025年「第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会及びアイスホッケー競技会」の本県での開催が先日正式決定し、冬季スポーツの振興と本県の地域の活性化に大きく寄与するものと考えている。
- ・本日は、県スポーツ推進計画の進捗状況と、第2次岡山県スポーツ推進計画の策定等について諮ることとしている。東京オリンピック・パラリンピックの開催やコロナ禍を経て、このたびの策定は、来年度以降5年間のスポーツ施策の方向性を示すものとなり、活発な審議をお願いする。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

(1) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況(2021年度実績)について

資料1 P.1~5

■事務局説明（スポーツ振興課長、障害福祉課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①数値目標（P 3）について

（委員）

- ・「新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合」が増加傾向にある理由は、運動不足が一番の原因と考えてよいか。

（保健体育課長）

- ・スポーツへの子供の取り組み方が二極化している状況にあって、全国的に見ても子供の体力はコロナ禍の影響を受けて低下傾向にあり、本県も同様である。感染症対策のため、学校での活動が制限された影響は少なからずあり、県教育委員会として普段の生活の中で運動習慣につながる施策を提案してきた。数値目標としている新体力テストの結果は、前回、全国平均を下回っているが、小学校男子は全国平均を上回り、小学校女子は全国平均に近づいており、引き続きこうした施策をしっかりと提案してまいりたい。

（委員）

- ・「成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合」が増えているが、どの世代が増えているのか。

（スポーツ振興課長）

- ・50代、60代の割合が増えているが、20代から40代のいわゆる、働く世代、子育て世代の割合が若干落ちている。コロナ禍の影響も大きいと考えているが、結果を分析しながら次期計画に活かしてまいりたい。

（委員）

- ・「新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合」の統計分母を教えてほしい。

（保健体育課長）

- ・「新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合」について、令和3年度実績は、小学校5年生が16,131人、中学校2年生が15,025人となる。

（委員）

- ・「成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合」は、どのような方法で把握しているのか。

(スポーツ振興課長)

- ・県内各地で実施している成人の運動能力テストのアンケートから導き出している。具体的には、27市町村を人口比が対等となるよう二分し、隔年で調査するものである。

(委員)

- ・成人男女の調査は、どのような場所で、どのような属性がある人を対象にして行われたのか及び対象者数を教えてほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・該当市町村に依頼し、年代別体力テストをしてくれた方を対象に実施しており、母数は300人である。これまでの調査は、依頼を受けてくれた方を対象としているため高い数値が出る傾向にあり、次期計画ではアンケートの方法を変更し、県民満足度調査の項目のひとつとして実施する予定である。

(委員)

- ・備前市では、市民意識調査のひとつにスポーツに関する設問がある。分母を対象人口にするとスポーツ実施率は低くなるし、どこまでをスポーツに含めるかにより、スポーツ実施率は変化する。

(委員)

- ・例えば、ヨーロッパではチェスもスポーツに含まれる。どこまでをスポーツとして扱うかの定義は大切である。

(スポーツ振興課長)

- ・従前の身体活動を伴うものから、スポーツの幅が広がっている。県民満足度調査では、「あなたは、どれくらい運動・スポーツをしますか」という設問としており、どこまでをスポーツとして扱うのかということは大きな課題であると考えている。なお、県民満足度調査は2,500人を対象としており、回答率は60%弱、統計上有意な数値となっている。

(委員)

- ・国のスポーツ基本計画の数値とも比較できるようなやり方、適切な実態把握ができるやり方を検討してほしい。

②クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上（参考資料P20）について

(委員)

- ・社会全体でコンプライアンスの重要性が増し、スポーツの視点ではインテグリティがうたわれている。岡山県でのスポーツ団体のガバナンスコードについて教えてほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・岡山県スポーツ協会は、ガバナンスコードに応じて毎年評価され、公表している。その他の県スポーツ協会加盟団体に対しては、県スポーツ協会と県から会議の場等でガバナンスコードを提示しセルフチェックを依頼しており、公表までは求めている。

(2) 第2次岡山県スポーツ推進計画の策定（骨子案）について

資料1 P. 6～12

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①障害のある人の運動・スポーツ活動の推進（P 9）について

(委員)

- ・障害児については、どのような取組をしているのか。障害のある子どもを対象にした障害者スポーツイベントがあればよい。障害者スポーツに関わっている専門性の高い方に、学校とは別の場で指導してもらえば、障害があっても子どものときからスポーツに親しめ、大人になってもスポーツができる環境が整うのではないか。例えば、障害者（児）といった標記をするなどして、子どもたちも含めた障害者スポーツについて考えてもらいたい。

②休日部活動の地域移行と学校部活動（P 9）について

(委員)

- ・休日部活動の地域移行と運動部活動改革を、今年から3年間で進めることが先日、国により示されたところであるが、次期計画の中にどのように組み込まれるのか。

(スポーツ振興課長)

- ・休日部活動の地域移行について、制度そのものの設計は県教育委員会が中心となり、それを総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進協議会などと連携しながら地域に展開するのが、スポーツ振興課の役割となる。地域部活動の推進協議会での議論や意見を踏まえながら具体的な施策を考え、子どもたちにとってより良いスポーツ環境をつくることができるように進めてまいりたい。

(保健体育課長)

- ・部活動の地域移行の背景として、県内の中学生の人数の減少があり、昭和61年約94,000人が令和3年約48,000人となりほぼ半減している。子ども

たちのスポーツ環境を考えたとき、これまでと同じような部活動を学校で提供できなくなってきた。そうした状況にあって、今まで学校で提供していた部分を何とか地域で提供することができないか、というのが国が提言している地域移行だと承知している。

- ・「休日の部活動を中学校から地域に円滑に移行するための取組」については、「子どものスポーツ環境を学校から地域に円滑に移行するための取組」といった内容になるものと考えている。今後、国から示されるであろう支援も活用しながら、子どものスポーツ環境がしっかりと確保できるよう、スポーツ振興課と連携しながら考えてまいりたい。

(委員)

- ・教員の在り方と保護者負担の問題や、スポーツをクラブチームでする子どもと部活動でする子どもの融合など、心配と期待の両方を持っている。次期計画の中に、うまく落とし込んでもらいたい。

(委員)

- ・岡山県は、保健体育課とスポーツ振興課、そして県スポーツ協会が協力しながら、地域ブロック単位で意見交換をしており、他県と比較したとき、少し先行している印象がある。先ほどスポーツの二極化の話もあったが、スポーツになかなか親しめない子どもたちも取り組めるようなスポーツ環境となるような方向で、次期計画に落とし込んでもらいたい。

(委員)

- ・スポーツ推進委員が全国に約5万人おり、今以上にこれから公共団体等と密接な関係を持つ必要がある。地域に溶け込み、地域のことをよく分かっているのがスポーツ推進委員。地域スポーツが目指す姿は、スポーツが持つ対面的な人間関係の拡大だと思う。コミュニティづくりや地域の活性化を狙った形が今までの地域スポーツであり、部活動の改革で地域がどのように活性化し、地域スポーツが変化するのか期待もある。

(委員)

- ・地域移行の受け皿のひとつが、総合型地域スポーツクラブ。全国協議会の共通テーマが、学校部活動の支援に関すること。現状ではほとんどのクラブが何をどうしてよいか分からない状態であり、情報交換を行っている。県内市町村の対応も様々であり、市内中学校の校長を参集し組織を立ち上げ情報共有しているところもあれば、中学校からの要請があれば動くというスタンスのところもある。どちらが良いか悪いかは別として、どこが主導するのかがはっきりしていない市町村が多い。円滑な移行を誰が主導するのか、教育委員会や学校長のやる気次第で変わってくるのではないかと

っている。

(保健体育課長)

- ・ 県教育委員会では、昨年度から地域移行のための委員会を立ち上げ、関係機関と連携しながら、検討しているところである。国の提言では地域スポーツ担当部署が中心となり、学校の設置管理運営を担う担当部署等と緊密に連携しながら検討を進める必要があるとされており、実際にどこがするのかということ、市町村それぞれの判断があると考えている。県内 27 市町村のうち 20 市町村は地域移行に向けたアクションを起こしていると承知しており、誰が主導するのかという話については、関係者全員で考えていくことがまずは基本になると考えている。

(委員)

- ・ 市町村に対して情報発信をし、市町村が動けるような環境づくりが県の役割ではないかと思う。引き続き、そのようにプッシュしてもらいたい。

(委員)

- ・ 部活動の地域移行が始まる中、高校については部活動が学校の特色になっており、それによって生徒が学校を選ぶという側面もあることから、高校部活動については、今回の提言では、学校等の実情に応じて改善に取り組むこととなってはいるが、中学校の部活動地域移行の流れを注視しながら、高校も今後どのように子どもたちのスポーツ環境を維持していくかということを考える必要がある。複数の高校が合同で野球チームを作る事例もあり、合同チームも今後のやり方のひとつではないかと思う。
- ・ 中学校部活動の地域移行が進むと、そこで活動した生徒が高校生となる。中高大学、中高地域社会人としてスポーツを続けることで、生徒がどのように成長するかということ、相対的に広く考えていく必要がある。これからの予測不可能な社会を生き抜く力の形成にあたり、授業や学校行事、地域連携活動等はもちろん重要であるが、部活動が担ってきた役割も非常に大きい。部活動で培われてきた判断力や課題解決能力を、学校でどのように担っていくか、地域移行された場合、そこが切り取られてしまうのか。そうしたことを今後、高校でも考えていく必要がある。

(委員)

- ・ 競技スポーツと地域スポーツクラブに関わっている。中学校部活動の地域移行に関し、アスリートのセカンドキャリアという枠組みの中で携われることもあるのではないかと思った。一番大切なのは、環境整備。スポーツクラブやスポーツ少年団の指導者の育成も大切である。

③障害者アスリート育成パスウェイ（P10）について

(委員)

- ・障害者アスリート育成パスウェイとして、何を計画しているのか。

(スポーツ振興課長)

- ・広く選手を集めて適性を見出し、育成していくのがパスウェイ。障害者についても、日本スポーツ協会や日本スポーツ振興センターが、国際的な舞台にアスリートを繋げるパスウェイの取組を、国単位や中国ブロック単位で実施している。県としても、障害者アスリートの目標づくりができるような施策をこれから考えてまいりたい。

(委員)

- ・パラスポーツではスポーツ振興センターが委託して行っている、J-STAR プロジェクトがあり中国ブロックでは広島県が何回も実施しており、香川県でも行う。岡山県には障害者が利用できる大きな施設がないため、岡山県から広島県に行っている方もいる。岡山県でも障害者を受け入れることができる場を整備してほしい。また、対象となる子どもに、支援学級に限らず広く声をかけることができる仕組みづくりも必要である。

④次期計画全般について

(委員)

- ・小学校体育の一番の目標は、子どもたちが将来豊かなスポーツライフをおくるための基礎づくりである。そのため、子どもたちが運動と出会う体育の授業を充実させることに力を入れており、「楽しいな。これからも運動したいな。」と子どもたちに思ってもらえるよう取り組んでいるところである。体育の授業以外に休み時間に子どもたちが運動に取り組めるチャレンジランキングや、トップアスリートの派遣事業なども活用しながら、子どもたちに運動の楽しさを伝えていきたい。
- ・学校現場では、コロナ対策はもちろん、熱中症も非常に大きな問題になっている。例えば岡山市では、熱中症指数が高くなると、休み時間に外で遊ばないようしているが、今年は6月からそのような日が続いている。子どもたちの体力づくりを考えたとき、これまでとは異なるアプローチも必要になってくるのではと感じている。

(委員)

- ・地域で運動支援ボランティアとして、100歳体操を広める活動をしている。コロナ禍で87ほどあったチームが20ほどまで減ったが、再開の動きが出てきて5チームほど増えた。地域の人が元気になり、隣近所で声を掛け合う取組が必要である。
- ・高齢者がスポーツをすると、孫がついてくるという話も聞く。また、高齢の母は相撲が始まると元気になると言っている。地元発のスポーツならではの、スポーツを楽しむ力を大切にしたい。皆でスポーツを盛り上げる工夫を県にはし

てもらいたい。

(委員)

- ・ 県内の小学校では、コロナ禍の時期と一致して、肥満傾向の子どもが増えて
いる。また、怪我をしやすい、怪我をしてすぐ骨折するといった子どもがい
るという現状がある。学校での検診により、以前と比べるとスポーツ障害の
発見がされやすくなっており、アスリートだけでなく、子どもの体力向上に
向けた取組の中にも、スポーツ医・科学の視点を取り入れてほしい。
- ・ 全体目標の「スポーツ立県おかやま」の実現のために、計画策定の趣旨にあ
る「人づくり、健康づくり、地域づくり」が目標としてあげられると思うが、
この部分と施策体系との関係が、もう少し分かりやすくなればよいと思う。
- ・ 「第2章 スポーツの現状」にあるスポーツを取り巻く社会の変化が、基本
施策とどのように関係しているかを分かりやすく示すことで、次の数値目標
にも生きてくるのではないかと思う。
- ・ スポーツの定義はとても大切である。岡山県の目指す姿があり、それに応じ
たスポーツの姿があると思うので県として考えるべきである。どういう人を
増やしたいから、このような施策をする、といったことが明確になるとよい。

(会長)

- ・ 休日部活動の地域移行については、国の第3期スポーツ基本計画では取り上
げられていない。それを県の計画で取り上げることで、子どものスポーツ環
境が整い、10年20年30年先のスポーツ立県おかやまの実現につながる。運
動・スポーツは、県民が健康に暮らすことに寄与しており、アスリートもス
ポーツの価値を高めることに貢献している。今日はキックオフの会議となる
ので、随時、意見を頂戴したい。

(3) 第2次岡山県スポーツ推進計画の策定スケジュールについて

資料1 P.13

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・ 資料に沿って説明

■質疑等

なし

4 報告事項 **資料2**

(1) 第79回国民スポーツ大会冬季大会の開催について

- 事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(2) 令和4年度オリンピック・パラリンピアン育成事業強化指定選手について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(3) 岡山県スポーツ特別顕彰について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(4) Cheer Up! Sports事業について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(5) おかやまマラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局 参与）

資料に沿って説明

5 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・本日は専門的な見地から様々な意見を頂戴し、感謝申し上げます。
- ・様々な意見がある中で昨年開催された東京オリンピック・パラリンピックは、感動や元気など、スポーツが持つ価値をあらためて私たちに示してくれた。
- ・スポーツが持つ価値をさらに高めていけるよう、県スポーツ推進計画の策定をはじめとした県事業を推進してまいりたい。